

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた  
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 岡山市立津島小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等教育学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒700-0089  
岡山県岡山市北区津島本町 19 番 1 号

E-mail : tsushimas@city-okayama.ed.jp  
 Website : http://www.city-okayama.ed.jp/~tsushimas/

児童生徒数：男子 432 名 女子 381 名 合計 813 名  
 児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

## 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

(1) 環境教育 (2年・5年・6年)

①第5学年「二酸化炭素の削減プロジェクト」(4月から翌年1月) 児童138名、アスエコ2名、岡山市京山地区 ESD 推進協議会1名、地域2名、国立吉備青少年自然の家2名、保護者90名

4月に地域と山間部の川の生き物や水の様子を比較した。1学期に、地球温暖化の現状と二酸化炭素発生の仕組みを教わり、ソーラークッカーによる温度測定、自転車発電、待機電力測定等を体験し、フードマイレージについても学び、二酸化炭素削減方法に目を向けた。また、緑のカーテン作りをして二酸化炭素削減を行うとともに、収穫した実を給食に出した。夏休みには各自が二酸化炭素削減を行い、9月に意見交換をした。3学期には、実践をプレゼンテーションソフトでまとめ、保護者や他学年へ発信した。

地球規模で環境保全を考え環境を守ろうとする意欲を高め、二酸化炭素削減に向けて各自が身近なところで実施する実践力を養うことができた。また、一人の100歩より、100人の一歩の思いを育てることができた。

②第6学年「My Project 今、地域のために自分にできること 広めよう行動の輪 環境」(4月から1月) 児童31名、地域の方28名、学区公園、座主川、岡山市京山地区 ESD 推進協議会1名

「環境」の分野として、地域の現状から問題点を見つけ、地域を良くするために、CO2削減の取り組みやエコ商品の使用促進、緑のカーテンを校内や地域にも広める活動、座主川の水質検査を行った。1月に、実践をまとめ、地域の方々と意見交換し、他学年にも活動を紹介しよりよい津島になるよう協力を呼びかけた。昨年までの学びをいかし、CO2削減の取り組みやエコ商品の使用に、意識的に取り組むことができた。1月に、実践をまとめ、地域の方々と意見交換し、他学年にも活動を紹介し環境保全への協力を呼びかけた。3学期には岡山京山地区ESDフェスティバルでも活動を紹介した。

環境保全のために自ら実践しようとする自主性や、調査結果を考察する情報分析力を育てると共に、地域へ働きかける力を高めることができた。

(2) 国際理解教育 (4年・6年)

①第4学年「外国と日本の文化の違い・共通点調べ」(6月から9月)

児童145名、外国人6名、タイバンコク日本人学校、オーストラリア小学生8名、日本語学級児童8名

国旗調べをしたり、国の特徴や外国の文化について図書資料やインターネット等を使って調べたりした。そして、「もしも、世界が100人の村だったら」の本をもとに世界の現状を外観し、世界の抱える課題と自分にできることを考えた。その中で、タイのチュンライの現地校が、歯ブラシなどを必要とすることがわかった。そのため、支援物資を校内から集め、現地に送った。送料捻出のため、校内に呼びかけて、古紙回収を行った。また、地域の外国の方や、本校の日本語学級の児童や、オーストラリアの小学生と交流し、文化の違いを乗り越えて、相手を尊重しかかわる体験をした。学んだことを模造紙にまとめ9月に、保護者に向けて発表した。

4年生では、外国の子ども達の生活や願い・文化の違いや共通点を調べる活

動を通して、文化は異なっても、同じ地球に住む人であることを理解し認め合い、自分にできることを考えて活動することができた。また、世界を概観し、自分の恵まれている環境を知り、困難にであっている人々の力になりたいという思いやりの心をもつようになった。異なる者への偏見の壁を低くし、共存意識をもち、互いを尊重しようという価値観を学ぶことができ、偏見の壁が高くなりつつあるこの時期に、価値ある学びが成立したとを感じる。

②第6学年「My Project 今、地域のために自分にできること 広めよう行動の輪 国際」(4月から1月)児童16名、地域の方28名、外国人等6名(インドネシア・エジプト・台湾・中国・アメリカ・ケニア等)、

地域の外国の方や地域の方々から、様々な国の情報を得た。そして、生活習慣の違いやルールやマナーにおいて、外国の方々が感じている困り感を理解し、その改善に向けて考え行動した。タイの現地校への支援物資集めへの協力を地域に呼びかけた。また、津島八朔踊りの練習に外国人の方々を誘い、地域の町内会の方々の協力を得て、交流を深めることができた。1月以降の学習プロセスは、環境分野と同じである。多様性を理解し、それを尊重する力や外国人が地域で感じている課題を発見し、その解決に向かい自ら行動を起こす力を育てることができた。

③国際理解委員会(4月から1月)児童30名

全校に呼びかけて毎週継続的に行った空き缶集めを通して得た利益で、ユニセフ募金をすることができた。

### (3) 食育(3年・5年)

①第3学年「大豆食品を取り入れた食生活の改善」(4月から翌年の2月)児童131名、保護者100名、

説明文「すがたを変える大豆」を読み、大豆への関心を高め、6月から大豆を植え育てたり、豆腐白玉を料理して食べたりした。醤油博士や豆腐屋さんや味噌作り名人の出前授業で、食に対する関心が深まった。そして、大豆の効用などについてインターネットや図書で調べ、ワークシートにまとめた。3学期に保護者に向けて発表した。食生活の改善のために、自分ができることを考えて実践した。私達の身の回りには大豆製品が多くあり、毎日の食事の時に必ずといっていいほど登場することを学習した。それにより、給食の中に大豆製品があるかないかを意識する児童が多くなった。これは、大豆だけではなく、「食」に関心をもつことにもつながると考えられる。日本の食文化を理解し、自らの食生活を見直す力を育てることができた。図書資料やインターネットを用いての調べ学習を通して、自分が調べたいことを調べるツールの使い方や選択する力についても考えることができた。さらに「課題設定→調べ→思考→課題→調べ→思考→…」といった探求していく態度や方法についても学ぶことができた。

②第6学年「My Project 今、地域のために自分にできること 広めよう行動の輪 食」

(4月から1月)児童28名、地域の方28名、生活学校8名

夏野菜づくりを通して、野菜の旬や成長の様子、生命の大切さを学んだ。また、自分たちで育てた野菜を使って、生活学校の方々から伝統料理を教わり調理し、地産地消の体験をした。1月以降の学習プロセスは、環境分野と同じである。地産地消に向けて、自ら実践し、それを学年内や各家庭に広げようとする力を育てることができた。

#### (4) 人権教育(1年・4年・6年)

##### ①第1学年「昔遊び体験」(9月から10月)

児童132名、津島小学校学区の高齢者15名、保護者60名、体育館

9月に、昔遊びの会の前に11種類の全部の昔遊びにふれ、「昔遊びがもっと上手になりたい」「この遊びのコツはなんだろう」等昔遊びに対して関心や意欲が、高まるようにした。その後、体育館で、昔の遊びを通して地域の高齢者と交流した。そして、地域の方々にお礼状を書き、児童だけで昔遊びに再挑戦した。高齢者の優しさやすばらしさに気づくと共に、人とふれあう楽しさや達成感や礼儀正しさ、高齢者を尊敬する態度や、コミュニケーション能力などを学ぶことができた。

##### ②第4学年「障害者や高齢者が住みやすいまちづくり」(9月から3月)

児童145名、盲学校教員1名、UD推進員1名、盲導犬の飼い主1名

国語科の教材から、障がい者や高齢者の方々の思いや考えに関心をもった。そして、アイマスク体験・車いす体験・点字体験・高齢者体験を通して、障がい者や高齢者の思いを体験することができ、人の役に立ちたいという意識を高めることができた。また、盲学校の先生から盲学校の子どもの学習の様子を聞き、同じ年齢の人たちが、一生懸命に同じように学んでいることを知り、偏見の壁を低くすることができた。さらに、視覚障がい者の方々の思いを聴き、みんなにやさしいまちにするために、自分にできることを考えた。そして、調べたり考えたりしたことを、文書ソフトを使って新聞にまとめ、保護者に発信した。障がい者への理解と人権を尊重する態度や、助け合う態度を育てることができた。

##### ③第6学年「My Project 今、地域のために自分にできる

こと 広めよう行動の輪 人権」(4月から1月) 児童18名、地域老人会10名、積善会、地域の方28名

地域の老人会の毎月の行事に昨年に引き続き参加し、途絶えていた地域の老人会との交流を復活させた。その会では相手を思いやる行いを自然にすることができるようになった。また、地域の高齢者福祉施設を慰問し、自然なコミュニケーションをすることができるようになった。1月以降の学習プロセスは、環境分野と同じである。高齢者とかかわる力や、人権を尊重する社会に向けて自主的に行動する力や、地域の課題発見力と問題解決能力を育てることができた。

#### (5) まちづくり(2年・6年)

①第2学年「まちの暮らしやすい仕組み」(6月から7月) 児童125名、保護者20名、散髪屋、保育園、郵便局、岡山大学農園、岡山大学図書館、私立高校等

6月に、郵便局や積善会、岡山大学などの津島学区内の施設(全18か所)の中から、興味がある場所を児童が選び、質問や見学上の注意事項などをまとめて、保護者の付き添いの下、グループで探検した。それにより、地域で働いている人々の喜びや苦勞を知り、自分たちの地域のすばらしさに気づくことができた。そして、7月に、わかったことや気付いたことを模造紙にまとめ、保護者に向けて発表した。

②第6学年「My Project 今、地域のために自分にできること 広めよう行動の輪 まちづくり」(4月から1月) 児童27名、京山公民館館長、津島福居町内会長、岡山市京山地区 ESD 推進協議会、地域の方28名、天津神社、妙善寺、

### 七つグロ古墳、半田山

伝統的な津島八朔踊りや、天津神社、妙善寺、七つグロ古墳、旧陸軍跡地などについて、意欲的に調べ、地域に誇りをもつことができた。1月以降の学習プロセスは、環境分野と同じである。地域の貴重な歴史的遺産を知ることができ、地域の良さや課題の発見力や、地域伝承文化を継承しようという意欲を育てることができた。

さらに、6年生は、学校を代表して世界会議のサイドイベントに参加し、学校の取り組みをプレゼンしたり外国の方々にインタビューしたりしたことにより、よりよい地域社会・地球環境を創っていく使命を再自覚することができた。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他( )